

ジャーナリズム実習

科目ナンバリング SOC-206
選択必修B 2単位

阪本 博志

1. 授業の概要(ねらい)

本年1月3日に本学が第8位を獲得した箱根駅伝をはじめ高校野球等、マスメディアが主催しマスメディアによって広く伝達される、メディアイベントとしてのスポーツ大会は、ジャーナリズムにおいて欠かせない位置を占めている。「ジャーナリズム実習基礎」「ジャーナリズム実習」は、このスポーツ大会を手がかりに、ジャーナリズムに対する理解を深めるものである。

授業の具体的な進行は、次のとおりである。

前期「ジャーナリズム実習基礎」では、テキスト(黒田勇編著『メディアスポーツへの招待』)を読み進める。発表担当者が当該章を発表する。受講者には、毎回の講読シートへの記入とその内容などを授業中に発言することが求められる。このようにしてメディアとスポーツについての基礎知識を得たのち、後期「ジャーナリズム実習」においてグループワーク(スポーツとジャーナリズムにかんする特定のテーマに沿った調査)をおこなう準備をし、後期の調査研究についての計画書を提出する。

後期「ジャーナリズム実習」では、前期に決めたテーマに沿って、調査・研究をおこなう。調査では、「聞蔵」「ヨミダス歴史館」「Web OYA-bunko」等MELICのデータベースを活用する。そして調査で得た知見を、授業中に発表をする。そこで得たコメント等を踏まえ期末レポートを作成する。

「ジャーナリズム実習」の授業は、「ジャーナリズム実習基礎」の履修を前提に進める。したがって、「ジャーナリズム実習」受講希望者は、「ジャーナリズム実習基礎」の履修が望ましい。

クラス規模は、25名程度を想定している。

2. 授業の到達目標

- ①データベースを用いた調査をすることができる。
- ②調査で得た知見を、論理的にかつ客観的に記述・発表することができる。

3. 成績評価の方法および基準

授業中の発表 30%
グループ活動への参加 20%
期末レポート 50%

4. 教科書・参考文献

参考文献
黒田勇編著 『メディアスポーツへの招待』 ミネルヴァ書房

5. 準備学修の内容

各グループのテーマに沿った先行研究を調べる。MELICにおいてデータベースを用いた調査を進める。これらについては、適宜助言する。

6. その他履修上の注意事項

- ①受講人数によって、内容や進度の調整をすることがある。
- ②発表予定者が予定日にやむをえない理由(学生便覧記載のもの)以外で欠席した場合には、事後の発表を認めず、単位を認定しないことがある。発表予定者が当日欠席せざるをえなくなったときには、可能な範囲内ですみやかに担当教員までメールにて連絡をすること。
- ③「ジャーナリズム実習」の授業は、「ジャーナリズム実習基礎」の履修を前提に進める。「ジャーナリズム実習」受講希望者は、「ジャーナリズム実習基礎」の履修が望ましい。

7. 授業内容

- | | |
|--------|--------------------------------|
| 【第1回】 | イントロダクション |
| 【第2回】 | グループワーク(調査研究)をおこなう(1)。 |
| 【第3回】 | グループワーク(調査研究)をおこなう(2)。 |
| 【第4回】 | グループワーク(調査研究)をおこなう(3)。 |
| 【第5回】 | グループワーク(調査研究)をおこなう(4)。 |
| 【第6回】 | グループワーク(調査研究)をおこなう(5)。 |
| 【第7回】 | グループワーク(調査研究)をおこなう(6)。 |
| 【第8回】 | グループワーク(調査研究)をおこなう(7)。 |
| 【第9回】 | グループワーク(調査研究)をおこなう(8)。 |
| 【第10回】 | グループワーク(調査研究)で得た知見の発表をおこなう(1)。 |
| 【第11回】 | グループワーク(調査研究)で得た知見の発表をおこなう(2)。 |
| 【第12回】 | グループワーク(調査研究)で得た知見の発表をおこなう(3)。 |
| 【第13回】 | 期末レポートの作成と添削をおこなう(1)。 |
| 【第14回】 | 期末レポートの作成と添削をおこなう(2)。 |
| 【第15回】 | 期末レポートの作成と添削をおこなう(3)。 |